サウンドデザイン演習 (女子美術大学)

【講義5】バロックの音楽

~絶対王政・激情・オペラ (1600-1750)

講義担当:石井拓洋

ishii05042@venus.joshibi.jp





画像:世界初の本格的なオペラ『オルフェオ』より (C.モンテベルディ, 1606年作曲) 「中世からルネサンスへむけての西洋音楽史は、 『宗教から生まれた音楽が、徐々に裕福な貴族のための 快適な楽しみへ移行していくプロセス』として 理解できるだろう [岡田:66]

バロックの音楽の時代背景

- 時代 (1600-1750)
 - ルネサンス音楽(1200頃-1600頃) のあと。
- 政治的背景 = 「絶対主義」
 - 16C-18Cのヨーロッパ
 - 国王が行政・司法・軍事等を、誰の制約も受けず行使 する政治体制
 - → オーストリア「ハプスブルグ朝」 (マリー・アントワネットの生家)
 - → フランス 「ブルボン朝」(ルイ14世 "太陽王" 在位 1643-1715)
 - → ロシア 「ロマノフ朝」 (エカチェリーナ2世, 第8代ロシア女帝, 在位 1762-1796)
 - → イギリス 「チューダー朝」(エリザベス1世, 第5代英国女王, 在位 1558-1603)

バロックの音楽の時代背景

• 絶対王政の背景

- 「王権神授説」 [松宮:79] 神から王権を付託されたとする考え。これに基づいて 国王はローマ教皇の権威から独立し、人民を支配した。

新約聖書「ローマの信徒への手紙」第13章 (絶対王政の理論的根拠の一つといわれる)

「人は皆、上に立つ権威に従うべきです、今ある権威はすべて神によって 立てられたものだからです。従って、権威に逆らう者は、神の定めに背く ことになり、背く者は自分の身に裁きを招くでしょう」 (ロマ書 13章)

バロックの音楽の時代背景

- 音楽の拠点 → イタリア (フィレンツェ, ローマ, ナポリ)



ドイツ語圏の国々(ザクセン王国,オーストリア大公国)

- •「バロック」 baroque の 美意識
 - バロック とは「いびつな真珠」の意味
 - ルネサンスと比較して「美術の趣味が悪い」という否定的な語
 - ルネサンス (調和の美) ⇔ バロック (劇的な美)



イタリア・バロック美術の代表 ベルニーニ 彫刻と建築 『聖女テレジアの法悦』 (1645-1652)





サンタ・マリア・デッラ・ヴィットーリア教会コルナロ礼拝堂 (ローマ)



ベルニーニ作 『ルイ14世胸像』 (1665) 大理石、 ベルサイユ宮殿 ディアナの間



Q.

バロックの音楽を代表する作曲家といえば?

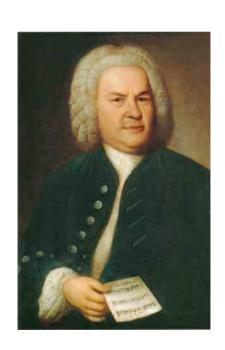
Q.

バロックの音楽を代表する作曲家といえば?

A . (想定される模範的解答)

J.S.バッハ Johann Sebastian Bach (1685-1750)

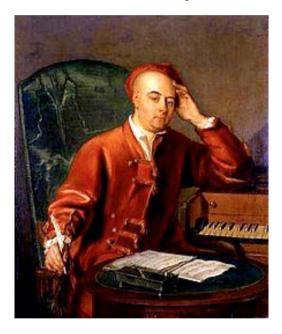
J.S.バッハ Johann Sebastian Bach (1685-1750)



- 💽 《2つのヴァイオリンのための協奏曲 二短調》 BWV1043「第1楽章」

G.F.ヘンデル Georg Friedrich Händel (1685-1759)





【試聴】

《オンブラ・マイ・フ》Ombra mai fù (1737) 歌:キャスリーン・バトル Kathleen Battle (ソプラノ)

ヘンデルのオペラ《セルセ》(第一幕第一場)のアリア。 曲名は「懐かしい木陰」を意味する。 ソプラノ歌手キャスリーン・バトルが歌ったこの曲は 1986年の「スーパーニッカ」 CM で 使用されて大反響をえた。 このCM映像の演出は、ウルトラマンシリーズで有名な 映画監督・実相寺昭雄氏

https://www.youtube.com/watch?v=sAE8dAqAiZE



ソプラノ歌手キャスリーン・バトルが歌ったこの曲は 1986年の「スーパーニッカ」 CM で 使用されて大反響をえた。 ちなみに、この映像の演出は、ウルトラマンシリーズで有名な 映画監督・実相寺昭雄氏

Q.

バロックの音楽を代表する作曲家といえば?

A . (想定される模範的解答)

J.S.バッハ Johann Sebastian Bach (1685-1750)

or

G.F.ヘンデル Georg Friedrich Händel (1685-1759)

もちろん、バッハらは この時代において無視出 来ない優れた作品を残した。

一方、、、

この時代の音楽様式を特徴づけるという点では

必ずしも 「典型的な作曲家」 とは言い難い。

時代様式がとらえにくい バロック音楽

「バロック音楽史の見取り図をややこしくしているのは、 バッハという『時代の最も偉大な作曲家』が 必ずしも文句無しに『時代の最も典型的な作曲家』 とはいえない点にある」 [岡田:85]

「バッハのイメージでバロック全体を代表させるようなことはしない方がいい」。 「バッハは〔※当時すでに〕古風なスタイルになりつつあった」

[岡田:86-87]

それでは、 「バロック音楽」の時代の内実とは?

2つの側面から探るバロック音楽

1. 社会機能的側面

2. 音楽書法的側面

バロック音楽の社会機能的側面

この時代 (16C~18C) の 西欧の「社会」とは

「絶対王政」の時代

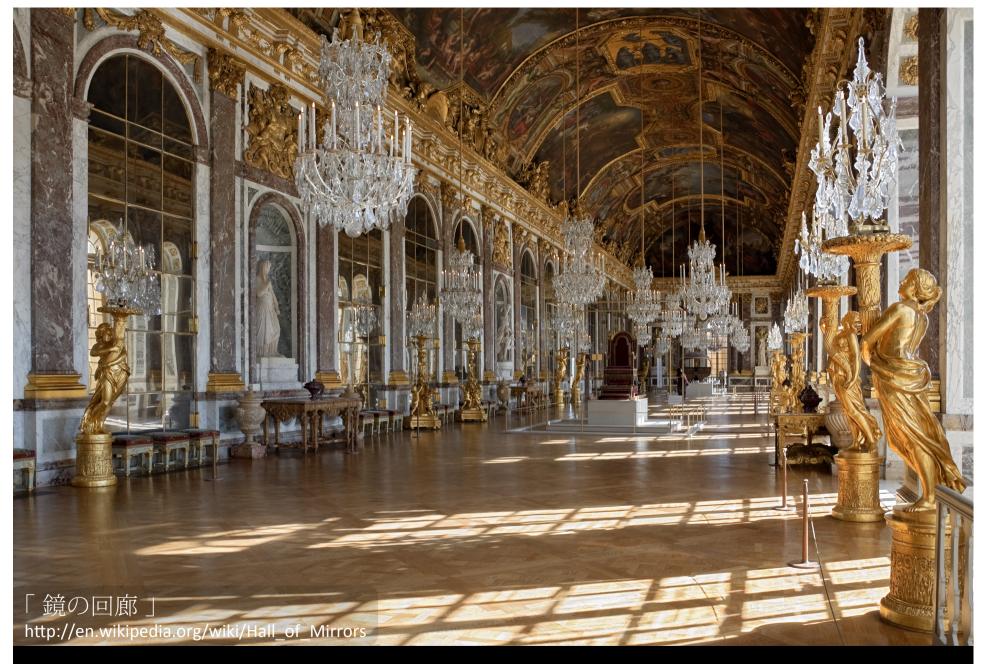


「正殿」

http://bienvenue.chateauversailles.fr/en/accueil

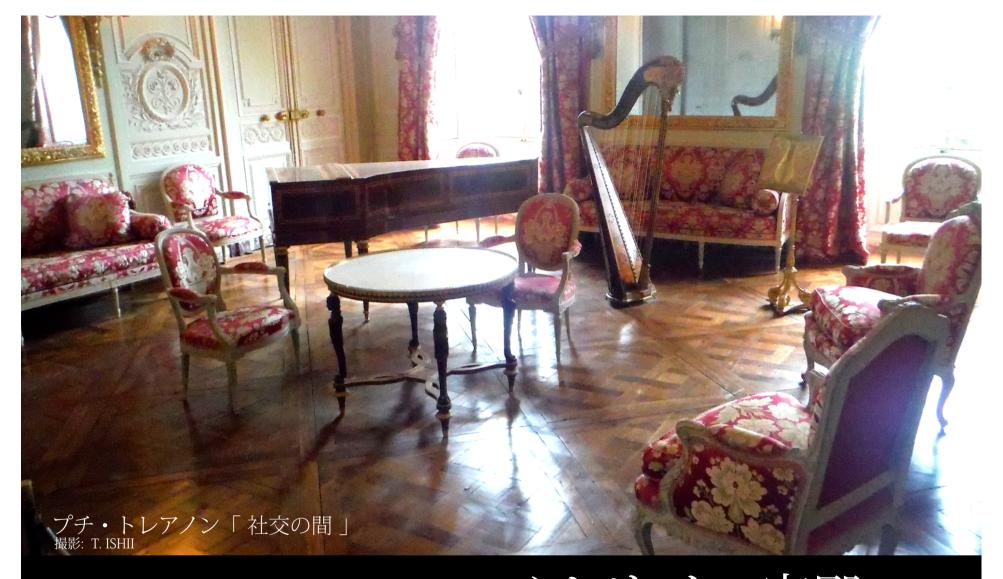






フランス「ブルボン朝」







フランス「ブルボン朝」

ベルサイユ宮殿

「マリー=アントワネットはヴェルサイユの宮廷から遠ざかることを考えて、1783年、村里を欲しました。 田園生活の魅力と、親しい宮廷の女性たちに囲まれてのひと時を求めて、王妃は村里を訪れました。 村里は、農夫が管理する 実際の農家として機能し、そこからの収穫物は宮殿の厨房に運ばれたのです」

http://jp.chateauversailles.fr/jp/discover-the-estate/le-domaine-de-marie-antoinette/the-queen-hamlet/the-queens-hamlet/le-domaine-de-marie-antoinette/the-queen-hamlet/the-queens-hamlet/le-domaine-de-marie-antoinette/the-queen-hamlet/the-queens-hamlet/le-domaine-de-marie-antoinette/the-queen-hamlet/the-queens-hamlet/le-domaine-de-marie-antoinette/the-queen-hamlet/the-queens-hamlet/le-domaine-de-marie-antoinette/the-queen-hamlet/the-queens-hamlet/le-domaine-de-marie-antoinette/the-queen-hamlet/le-domaine-de-marie-antoinette/the-queen-hamlet/le-domaine-de-marie-antoinette/the-queen-hamlet/le-domaine-de-marie-antoinette/the-queen-hamlet/le-domaine-de-marie-antoinette/the-queen-hamlet/le-domaine-de-marie-antoinette/the-queen-hamlet/le-domaine-de-marie-antoinette/the-queen-hamlet/le-domaine-de-marie-antoinette/the-queen-hamlet/le-domaine-de-marie-antoinette/the-queen-hamlet/le-domaine-de-marie-antoinette/the-queen-hamlet/le-domaine-de-marie-antoinette/the-queen-hamlet/le-domaine-de-marie-antoinette/the-queen-hamlet/le-domaine-de-marie-antoinette/the-queen-hamlet/le-domaine-de-marie-antoinette/the-queen-hamlet/le-domaine-de-marie-antoinette/the-queen-hamlet/le-domaine-de-marie-antoinette/the-queen-hamlet/le-domaine-de-marie-antoinette/the-queen-hamlet/le-domaine-de-marie-antoinette/the-domaine-de-marie-antoinette/the-domaine-de-marie-antoinette/the-domaine-de-marie-antoinette/the-domaine-de-marie-antoinette/the-domaine-de-marie-antoine-de-marie-ant





フランス「ブルボン朝」

ベルサイユ宮殿



プロイセン は普仏戦争でパリを陥落し、フランス の象徴であるこの回廊を使用してドイツ帝国を誕生させた (ドイツ統一, 1871)。一方、フランス は、第一次世界大戦でドイツ帝国が敗れた時、この回廊でドイツに敗戦責任を問うた (ベルサイユ条約, 1919)。



「王室オペラ劇場」

http://jp.chateauversailles.fr/jp/discover-the-estate/the-palace/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/the-palace/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/the-palace/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/the-palace/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/the-palace/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/the-palace/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/the-palace/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/the-palace/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/the-palace/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/the-palace/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/the-palace/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/the-palace/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/the-palace/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/the-palace/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/the-palace/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/the-palace/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/lopera-royal-jp/discover-the-est

フランス「ブルボン朝」

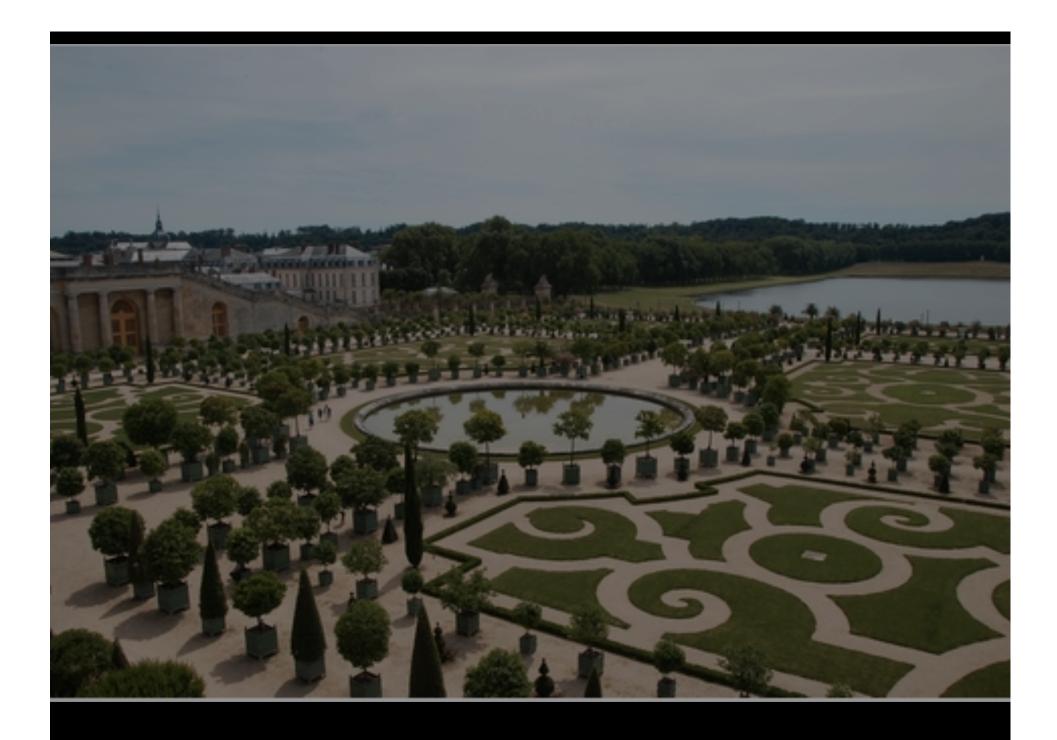


フランス「ブルボン朝」



Photo récupérée sur le site de l'opéra royal de Versailles

フランス「ブルボン朝」





「『王は願望を述べ、芸術家たちは構想を提出し、役人達は計算し、委員会では協議 が行われた。手職人の一隊、大工、画家、仕立屋、庭師、料理人が動員された。

〔中略〕数千人の労働者が10万時間働いた、 — それもおそらく一夜のうちに

STATE OF STREET

浪費されるためであった』(〔※リヒャルト・アレヴィン『大世界劇場』より〕」

「「花火、衣装、食事、建築、噴水、庭園、芝居、踊りなどと並んで

— こうした壮大な祝祭を演出するために欠かせない小道具の一つが、

音楽だったのである」

[岡田暁生:65-66]

バロック音楽の社会的機能は第一に

王様を讃える音楽

ルイ14世 と 作曲家リュリ



ルイ14世 「太陽王」 在位 1643-1715 バレエ好きなフランス国王



ルイ14世の宮廷楽長。イタリア生まれ。 フランス貴族社会で権勢をほしいままにした。 喜劇作家 モリエール (脚本) との共作し、 「コメディ = バレ」 を創作。



ルイ14世 Louis XIV (1638 – 1715) ブルボン朝からの第3代目のフランス国王。在位期間 (1643 - 1715)。 5歳にして国王即位。バレエを奨励し、自らも13歳 (1651年2月)でバレエの初舞台を踏む。15歳のころ、宮廷バレエ『夜』で初主演 (1653年2月23日)。そのときに太陽に扮して踊ったことで「太陽王」とよばれる。この公演は、貴族の王室に対する 反乱 (フロンドの乱)を彼が制圧した直後であり、ルイ14世の権力を見せつける機会となり、以後「絶対王政」が始まることになる。

ルイ14世と作曲家リュリ

映画『王は踊る』

(Le Roi danse, 2000制作, ジュラール・コルビオ監督, ベルギー)

- 作曲家 ジャン=バティスト・リュリの生涯を描いた映画
- 当時の宮廷と音楽との関係がよく描かれている映画
- 1653年に宮廷で自ら「太陽王」に扮して上演した宮廷バレエ『夜』の様子も。
- 貴族の反乱 (フロンドの乱) を制圧した直後の公演であった。
- 『夜』は彼の権力を誇示する機会となり、以後「絶対王政」が開始される。
- 当時、ルイ14世は 15歳。

参考資料 [白石,1991]

※ ルイ14世は背を高く見せるために「ハイヒール」をはくことを好んだ。映画でそれにちなんだ描写もあり。

映画 『王は踊る』 (2000年) より (6分程度)



1653年、15歳のルイ14世が「太陽王」に扮して上演した宮廷バレエ『夜』の様子。 作曲家 リュリは ルイ14世の寵愛を受けて宮廷楽長となり権勢をふるった。 王を讃えるために音楽を書いたリュリにおいて、バロック音楽の社会的側面の一つの 典型をみることができる。

バッハとバロックの関係

ルネサンス = キリストのための音楽

バロック = 王様のための音楽

バツハ = ?

バッハとバロックの関係

ルネサンス = キリストのための音楽

バロック = 王様のための音楽

バッハ = キリストのための音楽 (旧) プロテスタント(ルター派)

歌詞の内容伝達を重視する音楽

歌詞の内容伝達を重視する音楽

音楽サークル「カメラータ」 (1600年頃, イタリア・フィレンツェ)

- ルネサンスの流れでギリシャの古典が研究
- 詩と音楽の理想的融合の範 → ギリシャ悲劇
- ギリシャ悲劇の復興を目指した。
- 作曲家 カッチーニ や ガリレイ (ガリレオの父)など

歌詞の内容伝達を重視する音楽

音楽サークル「カメラータ」 (1600年頃, イタリア・フィレンツェ)

- ルネサンスの流れでギリシャの古典が研究
- 詩と音楽の理想的融合の範 → ギリシャ悲劇
- ギリシャ悲劇の復興を目指した。
- 作曲家 カッチーニ や ガリレイ (ガリレオの父)など

→「オペラ」の 誕生

歌詞の内容伝達を重視する音楽

- ルネサンス音楽(対位法の音楽)は

歌詞が聞き取れないからバロックでは嫌われた。

そこで

一人の歌手と楽器の伴奏の、

歌詞が聞き取りやすい音楽の形が生まれた

→ 「モノディー様式」

オペラの「レチタティーヴォ」と「アリア」へ

【聞き比べ】

パレストリーナ (ルネサンス期,対位法様式)

《ミサ・ナシェ・ラ・ジョイア・ミア Missa Nasce La Gioja Mia 》 - Kyrie (1590)

A. スカルラッティ (バロック期 , モノディ様式)

▼ アリア《菫 すみれ 》- 歌劇「ピッロとデメートリオ」より

【概略】

```
ルネサンスにおける古典研究

↓
ギリシャ悲劇の復元 (フィレンツェの音楽サークル「カメラータ」)

↓
歌と伴奏の形 (「モノディー様式」→「レチタティーヴォ」や「アリア」)

↓
感情表現の追求
```

「オペラ」の誕生

世界初の本格的オペラ

オペラ『オルフェオ』(1607)

作曲: クラウディオ・モンテベルディ(1567-1643, イタリア)

世界初の本格的オペラ オペラ『オルフェオ』(1607) 作曲:モンテベルディ

【あらすじ】

- ・ 古代ギリシャ時代、オルフェオ(男) はエウリディーチェと結婚した
- ・しかし、妻エウリディーチェは毒蛇にかまれて死ぬ
- 悲しむオルフェオは神に頼んで 天国から妻の奪取を試みる
- 神からの条件は、帰路にて妻の顔を見ないことであった
- ・しかし、オルフェオは天国からの帰路に妻の顔を見てしまう
- 妻は消えてしまう。
- なので、オルフェオ自身も天国へいって妻と暮らすことにする。



バッハとバロックの関係

ルネサンス(対位法 = 複数の旋律線による音楽)

バロック(歌と伴奏,モノディー)

バッハ ?

バッハとバロックの関係

ルネサンス(対位法 = 複数の旋律線による音楽)

バロック(歌と伴奏,モノディー)

バツハ 対位法 (旧)

※ 世界初の音楽学校

~ イタリアの港町の孤児院

※ 世界初の音楽学校

~ イタリアの港町の孤児院

- •イタリアの「ナポリ」と「ヴェネチア」に設立。 (16C)
- ・2都市は港町。港町には捨て子が多い。
- ・イタリアは、そのような捨て子に、自立の道をつくるために 音楽学校をつくり、彼らに教育を与えたという。
- ナポリの「ピエタ孤児院」(音楽学校)では、ビバルディが教えていた。
- ヴェネチアでは、『菫(すみれ)』のA.スカルラッティが教えていた。
- ・優秀な生徒は、イタリア・オペラの歌手としてデビューした。 このような、孤児の自立のための音楽学校がイタリア・オペラを支えた。

参考文献・自習のために

松宮秀治 (2008)『芸術崇拝の思想:政教分離とヨーロッパの新しい神』白水社 岡田暁生 (2005)『西洋音楽史』 中公新書 ドナルド・H・ヴァン・エス(1970=1986)『西洋音楽史:音楽様式の遺産』新時代社 片桐功・他(1996)『はじめての音楽史』 音楽之友社 石井宏 (2004)『反音楽史:さらばベートーヴェン』 新潮社 N・アーノンクール(1982=1997)『古学とは何か:言語としての音楽』 音楽之友社 白石嘉治 (1991)「踊る王から見る王へ:ルイ14世治下におけるオペラ再興の一断面」 『Les Lettres françaises』 11号、上智大学フランス語フランス文学紀要編集委員会

Web「マティアス・ヴェックマン」(Retrived 2012-06-11) http://www.geocities.co.jp/MusicHall/4053/weckmann.html

Web「ベルサイユ宮殿」(Retrived 2016-06-30) http://jp.chateauversailles.fr/jp/the-palace-